



出張報告書

令和 4 年 1 1 月 2 4 日

尼崎市議会議長 様

会 派 名 日本維新の会
 代表者氏名 辻 信行
 出張者氏名 寺井大地、池田りな

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

- 1 出張期間 令和4年10月27日から令和4年10月27日まで
- 2 結果の概要

用務先	報告事項 (この欄には要点を箇条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付) 中核市サミット 2022 in 豊田 1 未来の未来を探る～AI・組織・コミュニケーションの視点から 2 時代の変化にしなやかに適応する産業のミライ 3 多様なつながりと描く地域共生社会のミライ	
添付書類 <input checked="" type="checkbox"/> 出張調査報告書 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	備 考	

- 3 届出事項の変更等 なし あり (内容は裏面に記載)

旅 費 の 精 算

精算額は、令和4年9月14日届け出た額 (35,400円) と同一額である。

届出事項の変更等により、別途精算する。(精算額は裏面に記載)

(裏面)

届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

支 出 額	
精 算 額	
支出 差引 額 戻入	

変更前と後の日程

	月	日	日	日	日	日	日
前 発着地							
後							
前 経 路							
後							
前 用務先							
後							
前 宿泊先							
後							

出張報告書

報告先	尼崎市議会議長	報告日	2022年11月24日(木)	
会派	日本維新の会	氏名	寺井 大地	印

研修先	名鉄豊田ホテル @名古屋		
出張期間	2022年10月27日(木)		
目的	中核市サミットに参加し、他自治体の成功事例を学ぶこと		
月日	時間	訪問先	備考
10月27日	13時00分	名鉄豊田ホテル	研修会場
研修報告	<p>中核市サミットでの講演内容は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none">・基調講演 日本大学文理学部情報科学科助教 次世代社会研究センター所長 大澤 正彦 氏 「未来の未来を探る～AI・組織・コミュニケーションの視点から」・パネルディスカッション 名古屋大学名誉教授 山田 基成 氏 有志団体 Dream On 代表 中村 翼 氏 「時代の変化にしなやかに適応する産業のミライ」		

所 感	<p>今回講演をお聞きした大澤正彦氏は、東京工業大学附属高校、慶應義塾大学理工学部を共に首席で卒業。学部時代には、のちに日本最大級の人工知能コミュニティとなる『全脳アーキテクチャ若手の会』を立ち上げ、日本の人工知能の業界の若手のホープです。</p> <p>「ドラえもんを本気でつくる」を研究テーマにされており、SNSなどを活用したオープンな研究方法を駆使され、2020年には次世代社会研究センター（RINGS）を創設されています。</p> <p>今回の講演で最も心に残ったのは、「コミュニティ」がベースになった研究組織の RINGS です。日本だけではないですが、産官学連携の場合はまず目的があってプロジェクトは立ち上がるため、トップダウンになることがほとんどです。しかし、大澤氏が立ち上げられた RINGS は、コミュニティが先にあって、その中から「研究したら面白いかもね」というプロジェクトが後に出てくる、そんな研究組織となっています。この組織を大澤氏は、いろんな方向に棘は生えているが根は1つという意味をこめて「ユニ型組織」と呼んでいます。</p> <p>日本の企業の多くは、組織の目標達成のため、ノルマ達成主義、利益追求など組織の1つの歯車になります。しかしそこには新しい発想や構想が生まれにくく、今の日本の停滞感を生む要因の1つになっているのではないのでしょうか。</p> <p>今回講演頂いたこの RINGS は、自分が興味のある面白そうなことを、面白いと思ってくれる人と実施し、結果的に社会に貢献していくこと、そんな可能性を大きく感じさせられました。市民活動が活発な本市と、この RINGS は非常に相性がよく提携していくべきだと考えます。</p>
-----	---

出張調査報告書

尼崎市議会議員 池田 りな

日 時：2022年10月27日（木）13時～17時

場 所：名鉄豊田ホテル

テーマ：多様な主体とつながり、つくり、暮らしを楽しむ～中核市が描く「ミライのその先」～

<講 師>

- ① 大澤 正彦先生（日本大学文理学部 情報科学科助教授）
- ② 永田 祐 先生（同志社大学社会学部 教授）

研修内容

第1部：基調講演「未来の未来を探る」

大澤さんのプロフィールは大学教員、且つ2021年12月に新しい産官学連携のあり方を目指し設置された日本大学文理学部次世代社会研究センター（Research Institute for Next Generation Society）（RINGS）のセンター長です。

大澤先生（今後は大澤さんとして表記）は、「ウニ型組織」で社会変革をしたい。具体的手法は子供の頃からの夢「ドラえもんを作る」ために本気で最新のAIと人間を研究し尽くした大澤さんが語る人とロボットの「未来の未来を探る」の基調講演をお聞きして、私が強く感じたことをご報告します。

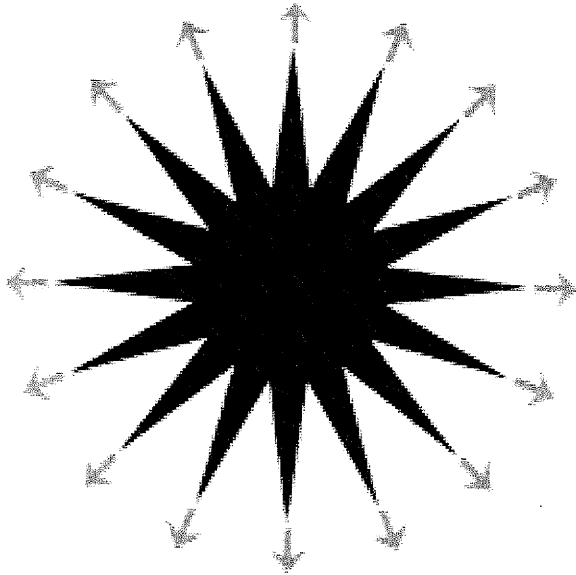
みなさんもお存じと思いますが「ドラえもん」とは22世紀の未来ネコ型ロボット。今の世界にタイムマシンに乗って来て小学五年生「のび太」くん（フルネーム:のびのび太）に寄り添い側でのび太くんの依頼で異次元ポケットから取り出した未来の道具を使ってのび太くんの成長をサポート

ートしていく物語です。

日本は世界から見ても少子高齢化社会が進んでいます。特に介護現場においては、人間の気持ちを理解し寄り添う「ドラえもん」のようなロボットが必要ではないか？という思いから、大澤さんは「ドラえもんをつくること」をライフワークとして取り組んでいきたいとおっしゃっていました。私は人間の心が分かるロボット「ドラえもん」がいれば、市民が行政に求める多様な要望にきめ細かく対応できる日がくると強く感じました。

多くの産官学連携はプロジェクトベースです。今回の大澤さんはコミュニティをベースとした「ウニ型組織」を提唱されています。多くの企業は、利益至上主義で必要部署を設置、その部署適材適所の人材を採用、育成する。そうなると思われられる人材は目的達成のため組織の歯車コマです。

これに対し、コミュニティベースの「ウニ型組織」は、それぞれが自分の夢を叶える目的を追求する課程でイノベーションやシナジー効果で $+\alpha$ の価値が創出されます。大澤さんは「みんながばらばらの方向を向いているのが美しさの根源であり、根っこではしっかりつながっており、中においしいものが詰まっている」これが「ウニ型組織」と話しておられました。



一人ひとりが自らの目的に向かいながら
中心で繋がり合う組織の形

ウニ型組織

と名付ける

RINGS / 大澤研 Note より「100人で100人の夢を叶える！ 大澤研が目指すウニ型組織とは！？」

最後に、豊田市では、日本大学文理学部次世代社会研究センター (Research Institute for Next Generation Society) (RINGS) とパートナーシップを締結しています。豊田市の山村地域の中高生が山村のミライについて考えるワークショップなどを開催し、地域、世代、立場を超えて対話をすることで、既存の価値基準にとらわれない山村の価値・魅力について気づきを得る機会を創っています。

尼崎市においても既に行政と大学、行政と企業等、それぞれの連携は行っていますが、今後は是非、大澤さんがセンター長をされる RINGS のような「コミュニティーベース」をキーワードに、学生や教員のほか様々な分野のプロボノ（社会的・公共的な目的のために、職業上のスキルや専門知識を活かしたボランティア）や企業や行政の担当者と信頼関係を構築し、そこから新たな価値の創出を目指すべきと考えます。

多様な主体とつながり、つくり、暮らし楽しむ ~中核市が描く「ミライのその先」~

中核市サミット 2022 in 豊田

開催スケジュール

13:00~
13:30

中核市サミット開会式

場所:7F 金扇の間

13:35~
14:35

基調講演 場所:7F 金扇の間

未来の未来を探る

~AI・組織・コミュニケーションの視点から~



<講師>

大澤 正彦氏

日本大学文理学部情報科学科助教/
次世代社会研究センター センター長

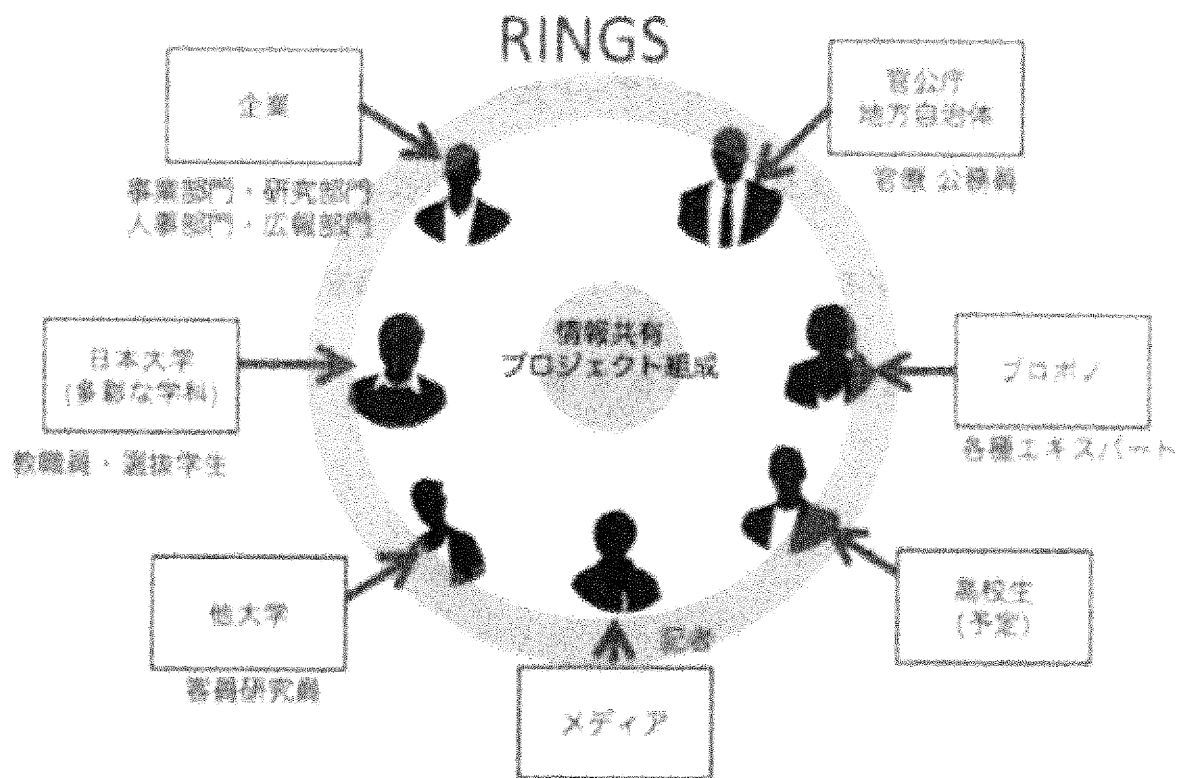
中核市サミット 2022 in 豊田 案内板より (池田撮影)



僕も本当はメンタリストではなく、
こんな研究者になりたかった。

メンタリスト **DaiGo** 氏 絶賛!!
★PHP新書
定価 本体580円(税別)

ドラえもんを本気でつくる PHP 出版HP より



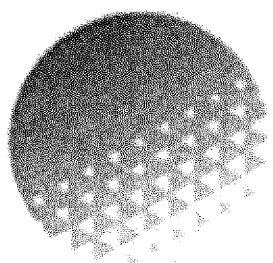
RINGS（次世代社会研究センター）の概要（発表資料より）

第2部：基調講演「多様なつながりと描く地域共生社会」

後藤 圭二吹田市長、柴橋 正直岐阜市長、太田 稔彦豊田市長、大澤正彦日本大学文理学部 情報科学科助教授、永田 祐同志社大学社会学部 教授によるパネルディスカッションでした。各市長が市の肝いりの取り組みについてお話をしてくださいました。ここでは、私が基調講演をお聞きして強く感じたことを書きます。

まず、太田 稔彦豊田市長の講演です。豊田市長は、健康寿命ではなく誰もが幸福感を感じながら自分らしく暮らせる「幸福寿命」を全うできるまちを目指しているとおっしゃっていました。健康寿命を延ばすことは理想ですが、難しいこともあるからです。

また、新しい官民連携の仕組み（SIB：ソーシャル・インパクト・ボンド）を活用した介護予防の取り組みとして、令和3年7月から「ずっと元気！プロジェクト」についてご紹介がありました。中でも、ボランティアスタッフがシニアのシニア世代のご自宅に厳選された飲食店のお弁当を届け、一緒に食事をすることでおいしい！と楽しい！の両方を味わっていただくプログラム「jeeba-its」など参考になる事例がありましたので尼崎市でも提案したいと考えます。



Next Rise
Social Impact Action

ミライのフツをつくろう

SDGs 

未来都市とよた

豊田市 HP より 新たな介護予防の取り組み「ずっと元気！プロジェクト」

続いて、柴橋 正直 岐阜市長の講演です。岐阜市では「働くこと」を通じ、人生の居場所や出番をつくる「ワークダイバーシティ」を大切にされているそうです。私が特に注目したのは、働きづらさを抱える岐阜市民を対象とした、新しい就労支援モデルをつくるプロジェクト「WORK! DIVERSITY プロジェクト in 岐阜」です。

本プロジェクトでは、国の制度に基づき、障がいのある方に就労支援を行う「就労移行支援事業所」「就労継続支援 A 型事業所」では対象とならない岐阜市民の就労支援を行います。働いた経験

がない・ひきこもり・がんの闘病中の方なども対象です。まだ始まったばかりの事業ですが、制度の狭間からこぼれ落ちた人の受け皿としてどのような機能を果たしていくのか動向をみていきたいと思います。



ワーク
WORK!

ダイバーシティ

DIVERSITY

PROJECT

in GIFU



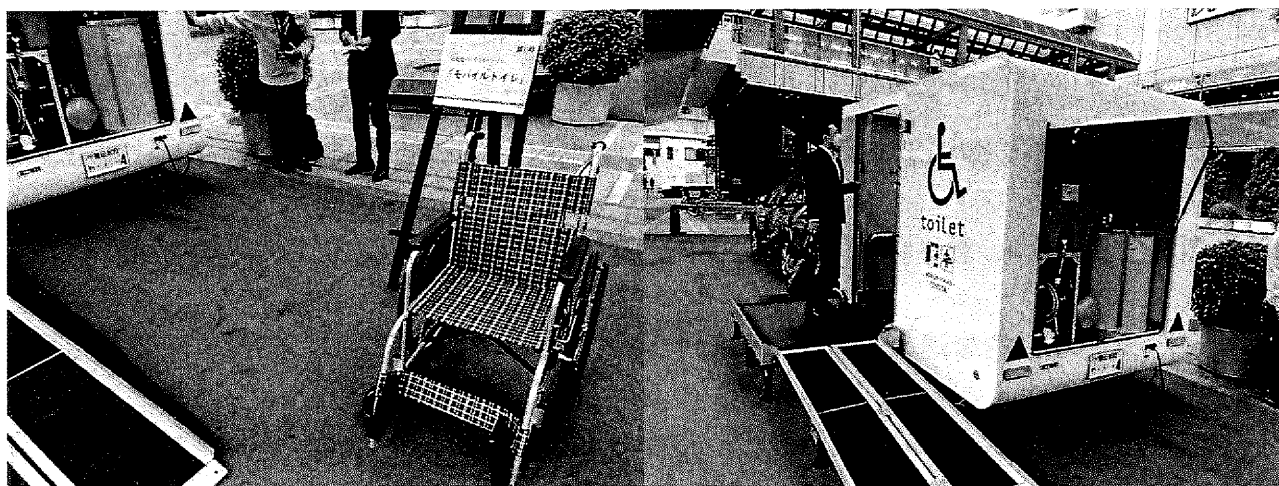
WORK! DIVERSITY(ワークダイバーシティ) プロジェクト in 岐阜 HP より

最後に後藤 圭二吹田市長の講演です。吹田市長は、「NATS」の取り組みが紹介されました。NATSとは、西宮のN、尼崎のA、豊中のT、吹田のSと、それぞれの頭文字を並べたものです。隣り合う4市が府県を越えて広域的な連携をすることは全国初ということです。市長が代わってからも連携が続くよう、人事交換も行っているそうです。吹田市長は、自治体同士で競争ではなく、柔軟な連携をしようという提案に、基調講演に参加した議員も大きく頷いていました。



吹田市 HP より「中核市に関連する取組 NATS（ナッツ）」

中核市サミット会場前では、トヨタ自動車と住宅設備大手のLIXIL（リクシル）が共同開発した各種イベント参加や災害時に車いす使用者の外出の可能性を広げる移動型のバリアフリートイレ「モバイルトイレ」が展示していました。



中核サミット 2022 に参加したことにより、各市が特に力を入れる政策を知ることができました。私は尼崎が力を入れている特筆すべき政策を 1 つあげるならば、各 6 地区に設置された生涯学習プラザの役割と取り組みではないかと思います。各地域に根付いた市職員と共に日々、老若男女の多世代が交流を行う拠点として、また生涯学習ができるイベントや集いの場として機能しています。今回、中核サミットに参加し学んだ他市の先進事例や参考にできる良い点は提案するなど、より良い尼崎を実現する為に、この経験を活かして参ります。

